



女性農業者活動グループ ひまわり会

知ろう・くるめの農業

農業・農村が持っている生産機能や多面的機能の理解に向けて  
**ふるさとみづま祭で消費者との交流を進め  
 農業・農村への理解を促進**

三潞町・ひまわり会などと消費者の交流

地域で生産した  
 農産物を通じて  
 消費者と交流

毎年約5万人が訪れる三潞地域最大のイベント「ふるさとみづま祭」は、市民のふれあいによって地域の連帯感を深め、文化・産業の交流、農産物の消費拡大などによる地域の活性化を目的に、毎年11月に開催されています。

三潞地域の女性農業者で組織するひまわり会を始め、三潞農業担い手連絡協議会、J・Aみづま女性部など多くの農業者団体が、地域で生産した農産物を通じて、消費者と交流し、三潞地域の農業・農村の素晴らしさを市民に向けて広く発信しています。



子どもたちにも大人気のひまわり会の大学芋

## 様々な催しを通じて 農業・農村の情報を 市民へ発信

久留米市では、農生産都市である久留米の魅力についての市民理解を進めることを目的に、様々な農業関連の催しを農業者団体と協働して実施しています。

毎年30万人以上の来場者がある「久留米つつじまつり」では、植木・苗木の生産が盛んな本市の魅力を市内外に大きくアピールしています。

また、久留米地域の「ふるさとくくるめ農業まつり」、田主丸地域の「田主丸耳納の市」、北野地域の「コスモスフェスティバル」、城島地域の「城島ふるさとまつり」などでは、地域の農業者が自ら生産した農産物や農産加工品を販売するほか、生産活動や農村に関



する情報を市民に広く提供し、農業・農村への理解を求めています。

## 自分たちが育てた 安全安心な サツマイモで作る大学芋

三潴町の女性農業者23名で組織するひまわり会は、「新しい農村型ライフスタイル」、「女性農業者としての地位向上」、「仲間作りを通じたゆとりある生活」をスローガンに、平成7年に結成されました。

ひまわり会では、様々な研修会、学習会を実施するほか、自分たちが育てた安全安心なサツマイモを使った手作りの大学芋を、ふるさとみづま祭で販売するなど、消費者との交流を進めています。

農業は、私たちが生きていくために



必要な食料を生産するだけではなく、水資源のかん養、大気の浄化、多くの生き物の生息地など様々な機能を有し、農村地域に住む人々だけでなく、市民みんなの貴重な財産となっています。

(写真上) 三潴農業担い手連絡協議会による「新米のすくい取り」などの催し。

(写真中) JAみづまによる「ちびっこおにぎりづくり体験コーナー」。体験を通じて、地域の特産品である米の美味しさを実感します。

(写真下) JAみづまの里農産物直売所による地元産農産物、農産加工品の販売コーナー。新鮮な旬の農産物が安価で販売されています。



## 北部九州最大の農生産都市

## 久留米の活性化、キーワードは食と農

久留米市の農業産出額は、約326億円(H19年)で、福岡県のみならず北部九州最大の農生産都市となっています。本市の農業生産は、特定の品目だけではなく、野菜、米、植木、畜産、果物、花など多種多様な農業生産が行われていることが特徴です。

農業は、農産物を流通、販売する商業、加工する食品製造業、市内外へ輸送する運送業などと密接に関係しており、農業が活性化することは、市内の様々な産業へも波及していきます。

久留米市では、農業と商工業の連携を強化し、新たな商品やサービスの創出をめざすとともに、福岡県と協働して、「食と農」をテーマにした筑後スローフードフェスタ・シンポルイベントを開催するなど、地域資源を活かした地域の活性化、農業・農村への市民の理解を促進しています。



(上) 毎年10月に六角堂広場で開催される筑後スローフードフェスタ・シンポルイベント(下) スローフードフェスタでは、地元産小麦を使ったパンも販売されました。